

真言宗洛南学園

洛南高等学校・同附属中学校・同附属小学校

いじめ防止基本方針

—校訓「自己を尊重せよ 真理を探求せよ 社会に献身せよ」の実現のために—

はじめに

平成 25 年度に制定された「いじめ防止対策推進法」に基づき、いじめ防止基本方針を作成しました。

近年、学校教育現場に於いて「いじめ」問題は児童・生徒指導上の重大な課題となっています。クラスや部活動における弱者に対するいじめだけでなく、電子ツールの発達によって引き起こされる動画投稿や誹謗中傷等、複雑化・多様化・潜在化したものへと変化してきています。

いじめは、いじめを受けた児童・生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えます。また、児童・生徒の生命または身体に重大な危険を生じさせるおそれがあります。よって、真言宗洛南学園では、児童・生徒一人ひとりの尊厳と人権が尊重される学校づくりを推進することを目的に、京都府・家庭その他の関係機関との連携の下、いじめ防止対策推進法第 13 条の規定に基づき、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、表記の基本方針を策定しました。従来の生活指導では、事案が発生した後の対処が主導でしたが、今後はいじめの防止、いじめの早期発見を第一として取り組むことを目的とします。

※第 13 条 学校は、いじめ防止基本方針又は地方いじめ防止基本方針を参酌し、その学校の実情に応じ、当該学校におけるいじめの防止等のための対策に関する基本的な方針を定めるものとする。

第1 いじめ防止等の組織

1. いじめの防止等に関する取組を実効的に行うため、担任やクラブ顧問を主導として活動するが、より効果的にいじめ防止を行うため、校内に「いじめ相談員」、「いじめ対策委員会」を設置する。
2. 「いじめ相談員」・「いじめ対策委員会」の構成員は、学校長が任命した下記のメンバーで構成される。ただし、必要に応じて関係する教職員やスクールカウンセラー等の専門家を加える。

<いじめ相談員>…学年ごとに男女 1 名（小学校は校内男女各 1 名）、いじめの通報窓口だけでなく、いじめ防止の広報活動を行う。

<いじめ対策委員会>学校長の強力なリーダーシップのもと、

学校長、事務長、副校長、渉外部長、教務部長、生徒部長、保健部長、学年主任、いじめ相談員

で構成する。

「いじめ対策委員会」の主導の下、「学年児童・生徒指導係、担任、養護教諭」等と連携し、「いじめの防止」及び「いじめが発生」した場合の具体的な調査・対応を行う。

3. 「いじめ対策委員会」は、原則として毎月第一月曜日の放課後に開催する。なお、緊急に必要なあるときはこの限りではない。

4. 「いじめ対策委員会」では、次のことを行う。

(1) いじめ防止のため、基本方針に基づく各種取組の実施、具体的な行動計画の作成・実行・検証・修正。

(2) いじめの相談・通報の窓口の設置及び有効活用。

(3) 関係機関、専門機関との連携。

(4) いじめの疑いや児童・生徒の問題行動などに係わる情報の収集と記録（全教員が共有）。

(5) いじめの疑いに係わる情報に対して、関係する児童・生徒への事実関係の聴取、指導や支援体制及び保護者との連携、対応方針の決定。

(6) 重大事態が疑われる事案が発生したとき、重大事態に係わる事実関係を明確にするための調査を行い、解決を図る。

(7) 当該重大事態を踏まえた同種の事態の発生防止のための取り組みの推進

(8) 本校における「いじめ防止のための基本的方針マニュアル」の作成

等

第2 いじめの未然防止

1. 基本的な考え方

いじめは、どの子にも起こりうるものであるとともに、どの子どもも加害者にも被害者にもなりうるものです。このことを踏まえて、すべての児童生徒を対象に、互いの個性は価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重するなど豊かな感受性をはぐくむとともに、いじめを許さない集団づくりのために、全教職員・保護者等が一体となって継続的に取り組むものとします。

2. いじめの未然防止のための取組

(1) わかりやすく規律のある授業の推進

- ・授業にふさわしい教室環境づくり
- ・チャイム着席の徹底
- ・始業・終了時の挨拶の徹底
- ・授業内容の充実

等

(2) 自己有用感を育む HR 活動や部活動の推進

- ・学校行事を通じた学級づくり
- ・課題や小テスト等を通じたコミュニケーションづくり（努力への評価）
- ・クラブ活動への参加促進
- ・クラブ活動を通じた小・中・高の交流・活動

等

(3) 豊かな心を育む取り組みの推進

- ・御影供・道徳・宗教のじゅぎょう・学級活動・学校行事等を通して児童・生徒の道徳観の向上や人権教育の促進
- ・集団読書・読書感想文等による仲間意識の向上や情操教育の向上

等

(4) いじめ防止等についての児童・生徒の主体的な活動の推進

- ・児童・生徒会活動や各種学校行事を通じて他クラス・他学年との交流

等

(5) 教職員の資質向上を図る校内外研修会

- ・夏季研修会、生徒部・カウンセリング委員会主催の研究会、宗教行事委員会等のさらなる充実及び校外研究会への積極的参加を促す。

等

3. 上記をより効果的に行うために「教職員いじめ防止対策マニュアル」の実践

第3 いじめの早期発見

1. 基本的な考え

いじめは、遊びやふざけあいを装ったり、教職員のわかりにくい場所や時間に行われるなど、教職員が気づきにくく判断しにくい形で行われることが多くあります。児童・生徒が示すちょっとした変化や危険信号を見逃さないように、教職員は日頃から児童・生徒との信頼関係の構築に努め、また、保護者との連絡を密にし、児童・生徒の家庭内における様子等を把握しなければなりません。さらに保護者は、家庭での親子の会話を充実させ、不審な言動や心配なことがあれば、担任に連絡し、教職員・保護者が一体となっていじめの早期発見、いじめの早期解決に努力します。

2. 情報の集約と共有

- ・いじめに関する情報については、些細なことも含め「いじめ対策委員会」で情報を集約する。集約された情報は、学年主任を通して各学年に流され、全教職員で共有する。
- ・緊急の場合は、職員会議等で情報を共有する。

3. 相談体制の整備と周知

- ・**担任**…児童・生徒相談の中心とし、児童・生徒が気軽に話しをすることができるクラスづくりを行う。

スクールカウンセラーの来校する日時を、児童・生徒、保護者に周知徹底する。

- ・**クラブ顧問**…練習だけでなく、クラブ内の上下関係・人間関係を把握する。
- ・**教科担当者**…授業中の児童・生徒の様子を把握し、異常を感じたら担当へ連絡する。
- ・**いじめ相談員**…所在を明確にし、いつでも児童・生徒が話をすることができるように心がける。
- ・**養護教諭**…体調不良等で保健室に訪れる児童・生徒を把握し担任へ連絡する。
- ・**カウンセラー**…児童・生徒のプライバシーを配慮した上、必要に応じて担任及びいじめ防止対策委員会へ連絡する。
- ・**その他**…すべての教職員は児童・生徒の相談に積極的に応じる。

第4 いじめに対する取組

1. 基本的な考え

いじめの発見・通報を受けた場合は、特定の教職員で抱え込まず、速やかに「いじめ対策委員会」へ報告し、今後の対応について検討します。その際、被害者児童・生徒を守り通すとともに、加害者児童・生徒に対しては教育的配慮の下、毅然とした態度で臨まなければなりません。これらの対応については、教職員全体の共通理解、保護者の理解・協力が組みます。

2. いじめの発見・通報を受けたときの対応

- (1) いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止めさせ、児童・生徒と面談し事実確認を行い、その旨をいじめ対策委員会へ報告し、その指示に従い対処する。
- (2) いじめと疑わしき行為を発見した、あるいは相談や訴えがあった場合には、速やかに「いじめ対策委員会」へ報告し、その指示に従う。
- (3) 「いじめ対策委員会」を中心に、関係児童・生徒から事情を聞く等いじめの有無の確認を行う。結果は、加害・被害児童・生徒及びそれぞれの保護者に連絡するとともに、関係機関に報告する。

- (4) いじめられた児童・生徒保護者への支援を行う。
- (5) いじめた児童・生徒保護者への指導（処分を含む）を行うとともに、保護者により成長に向けての学校の取り組みを伝え、理解・協力を求める。
- (6) 児童・生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じる恐れがあるときには、直ちに京都府や警察等との連携を図り対処する。
- (7) いじめが起きた集団に対しても自分の問題として捉えさせ、集団の一員として、互いを尊重し、認め合う人間関係を構築できるような集団づくりを進めていく。

3. ネット上のいじめへの対応

- (1) パソコンやスマートフォン（携帯）等の購入・使用については、保護者の管理・責任において使用させ、使用状況を必ずチェックする。
- (2) ネットいじめを誘発する通信情報システム等についての教職員研修を実施する。
- (3) ネット上の不適切な書き込み等については、関係機関に連絡し対策を講じる。場合によっては、保護者責任の下、直ちに削除する措置をとる。
- (4) 情報の授業や各種情報講座等を利用し、情報モラル教育を推進する。

※近年、メール、ブログ、チェーンメール、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）等の利用によるトラブルやいじめ問題が急増しております。ご家庭で、パソコン・携帯電話・ゲーム機等の使用状況の管理を厳しく行って下さい。

第5 重大事態への対処

1. 重大事態が発生した場合は、学校は直ちに京都府に報告し、調査を実施する主体等を協議する。学校が調査を行う場合は、「いじめの防止等のための基本的な方針」（文部科学大臣決定）及び京都府におけるいじめ防止等のための基本的な方針に基づき、「いじめ対策委員会」を中心に、被害児童・生徒・保護者の思いを踏まえるとともに、調査の公平性・中立性の確保に努め、事実関係を明確にする。

※ 重大ないじめ事案…心身・財産・長期欠席（目安は30日）を余儀なくされる疑いのある事案

- ※重大事態の意味＝①児童生徒が自殺を企図した場合
②身体に重大な傷害を負った場合
③金品等に重大な被害を被った場合（金額の如何にかかわらず）
④精神性の疾患を発症した場合
⑤児童生徒・保護者から重大事態に陥ったと申し出があった場合
等のことをいいます。

2. 学校で行う調査の状況については、必要に応じていじめを受けた児童・生徒及びその

保護者に対して、「いじめ対策委員会」が適切に情報を提供する。

3. 調査結果を本校責任者が、京都府に報告する。
4. 調査結果を踏まえ、当該重大事態と同種の事態の発生の防止のために、学年集会やHR活動を通じて、必要な取組を進める。

第6 関係機関との連携

いじめ対策委員会は、行政機関・警察・弁護士・各種相談所等の関係機関と適切な連携を図るように努める。

第7 その他

1. 家庭との連携の推進

- (1) 担任は、年5回の保護者会や、日々の生活において、遅刻・欠席等の連絡をするだけでなく、児童・生徒の様子を見て、日常と異なることを感じた時は、保護者に連絡し家庭での様子を把握する。
- (2) 気になること心配なことがあればいつでも相談を受けます。

＜いじめ防止・いじめられ防止・早期発見のためのチェックシート＞保護者用

「心の乱れは生活の乱れ、生活の乱れは心の乱れ」

あなたのお子さんは、

- 朝一人で起床できない。
- 「おはよう」と挨拶しない。
- 挨拶をしても、何も言わず俯いている。
- 朝食を食べない。
- 「行ってきます」と言わない。
- 登下校時に服装が乱れている。
- 制定品以外の物を着用している。
- 遅刻・欠席・早退が多い。
- 登校を嫌がり体調不良を訴える。
- 顔や身体に傷がある。
- 学校に不要な物を頻繁に持って行く。
- 学校で物がなくなったり壊れたりすることが増えている。
- 帰宅時間が定まらない。
- 家事の手伝いなどをしない。
- 夕食時、学校や友人の話をしない。
- 親子の会話が少なく、話をすると「わかっている」「うるさいなあ」とよく言う。
- 「学校が面白くない、面白くない」と繰り返す。
- 部屋にこもり、何をしているのかよくわからない。
- ゲームばかりしている。
- 勉強といいながらパソコンやスマートフォン（携帯）にはまっている。
- 夜中に起きていることが多くなった。
- 定期考査や小テストの成績が急に下がってきた。
- 休みになると頻繁に友達と遊ぶようになった。
- 急にお金の使い方が荒くなった。
- いつ買ったのかわからない物を持っている（増えた）。
- 着る物が派手になったり、言動が荒くなったように感じる。
- 「何かあったのかな?」「近頃、何か隠し事をしているような気がする」と感じることもある。

※ これはあくまでも目安です。必ずしもいじめたり、いじめられているということではありません。心掛けていただきたいポイントです。まず大切なことは、常に子どもに声をかけ、コミュニケーションを持っていただくことです。